

第3章 西区の将来像と基本方針

I 西区のめざす将来像と基本姿勢

1 めざす将来像

ひとの想いがつながり 地域の宝が輝く 笑顔あふれる 西区
～ 持続的に発展する 住みたい 住み続けたい 西区 ～

人口減少社会の様々な課題に直面する中、すべての人が自ら住む地域に愛着を抱き、持てる力を発揮し、自分らしく輝きながら、安全に安心して笑顔で暮らせる地域社会を実現し、かつ持続的に発展し続ける西区であることが理想です。

こうした理想を実現するためには、多様なニーズや価値観を尊重しながら、人と人が柔軟につながり、新たな価値を生み出せる地域社会であることが重要です。

西区には、地域を想い、支え合う人々の温かさや、歴史・文化・産業・地域コミュニティや活動・多様な人材も含め、これまで長年にわたり育まれ、守られてきた「地域の宝」があります。

「想い」をもつ人と人とが協力し合い、これらの「地域の宝」を輝かせ、未来につなげることで持続的な発展が可能となります。また、「想い」を持つ人と人とが結びつき、協力し合うことで新たな地域の宝を発掘できる可能性も秘めています。

そのため、これまで掲げてきた「ひと・まち・資源がつながり笑顔かがやく西区」の理念を継承しながら、西区に暮らす人々の「想い」と西区の「地域の宝」に重点を置いた「ひとの想いがつながり地域の宝が輝く 笑顔あふれる 西区」を、めざすべき将来像として掲げます。

< 体系図 >



2 基本姿勢

将来像を実現するため、次の2つの基本姿勢ですべての基本方針に基づく施策を実施します。

基本姿勢1

プラットフォーム・ビルダー

～つなぐ力を高め 地域の課題解決を進める～

地域社会では女性や若者、高齢者、障害者、外国人など多様な人々が活躍し、活動の場を広げています。一方で、生産年齢人口の減少、共働き世帯の増加や労働者の定年延長などにより、地域活動を支える人材の高齢化や負担の増加が懸念される中、特定の人に負担が偏ることなく、それぞれが自らの個性や能力を十分に発揮できる地域社会の実現が求められています。

実現には、区民、自治会、ボランティア・市民活動団体、民間事業者などの地域で活動する多様な人々が、自らの想いで無理のない範囲で結びつき、それぞれの持つ力を発揮し、連携・協働して地域の課題を解決できる環境が必要です。

そのため区役所は、住民サービスを提供するサービス・プロバイダーの役割に加え、地域で何か役に立ちたい、力を発揮したいと考える人どうしを結び、相互に協力し合える環境をつくる「プラットフォーム・ビルダー」(*)の役割を果たします。また、地域の中での自発的な相互連携を支援します。

マッチング(つなぐ)には、想いに共感し、相互に受容されることが重要です。従来の地縁型コミュニティに加え、防災や子育て、健康、文化・スポーツなど、共通の関心事でつながるテーマ型コミュニティの概念を取り入れ、従来の枠組みにとらわれず強制感・負担感が生まれづらい楽しくやりがいのある活動となるよう、対話を重視しながら柔軟に活動主体をつなぎます。

(*)「プラットフォーム・ビルダー」

地域のために主体的に活動する人や団体どうしを結びつけ、相互に協力し合える環境をつくる役割

地域をつなぐ「プラットフォーム・ビルダー」に!

みんなと想いを共有 ともに考え 新たな価値を創造



基本姿勢 2

スマート区役所

～デジタル社会と調和した住民サービスの質の向上～

区役所は、新たな行政課題に対し迅速に対応できるよう即応性と柔軟性を向上させ、住民の期待に応えることが求められています。生産年齢人口の減少等により職員の確保が困難となる中、ICTの積極的な活用による住民サービスの高機能化を図ると同時に、行政の業務効率化が不可欠です。

また、地域活動においても活動内容やコミュニケーションにICTなどの先端技術を取り入れることで、より柔軟かつ円滑な活動が期待できます。

他方で、デジタル機器の利用が困難な人への配慮も欠かせません。直接対話することで解決できる課題もあり、誰一人取り残されることのない行政サービスを提供する必要があります。

「デジタル」と「アナログ」の調和で

みんなにとって 便利で安心 頼れる区役所

区役所では住民の暮らしに寄り添った持続可能な区政運営と住民サービスの質の向上との両立を図るため「スマート区役所」(*)として次の姿勢で取り組みます。

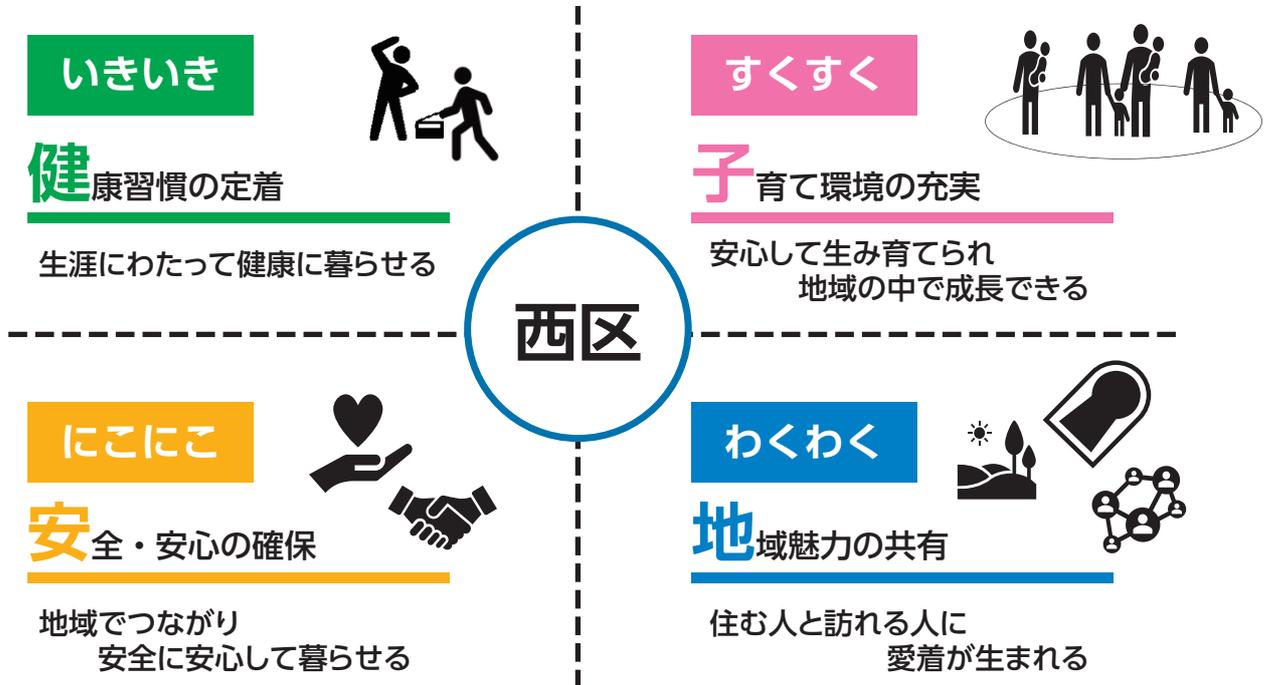
- 窓口改革による業務フロー全体の見直しを通じて、「お越しいただかない」「お待たせしない」「お書きいただかない」「分かりやすい」行政サービスの提供を推進し、利便性を向上させます。
- これらの取組を支えるために、住民と行政の双方がデジタル技術に対する理解を深め、ICTリテラシーを高められるよう意識改革に取り組みます。
- 一方で、デジタル技術の利用が不慣れな人や困難な人に対し、操作方法を学べる機会の提供など、デジタル・ディバイドの解消に取り組みます。
- 窓口での丁寧な対応や家庭訪問などの対面でのコミュニケーションを図るなど、誰一人取り残されることのない、きめ細かなサービスを提供します。

(*) スマート区役所

ICTなどの先端技術の活用によるスピードやスリム化を重視した住民サービスの質の向上、利便性の向上といった側面だけでなく、安全・安心な暮らしを支えるため住民に寄り添ったやさしいサービスを提供できる区役所

Ⅱ 4つの基本方針

西区がめざす将来像「ひとの想いがつながり 地域の宝が輝く 笑顔あふれる 西区」を実現するため、必要となる4つの要素を基本方針とします。



<堺市 SDGs 未来都市計画>

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) とは、平成 27 (2015) 年の国連サミットで採択された国際社会の普遍的目標です。「誰一人取り残さない」持続可能で、多様性と包摂性のある社会を実現するため、令和 12 (2030) 年を年限とする 17 の目標 (ゴール) とその下に 169 のターゲットが定められており、すべての国、あらゆるステークホルダーが取り組むべき目標とされています。

本市では、「堺市 SDGs 未来都市計画」を策定し、SDGs のゴール達成に向けた具体的な取組を推進しています。



基本方針 1 健康習慣の定着

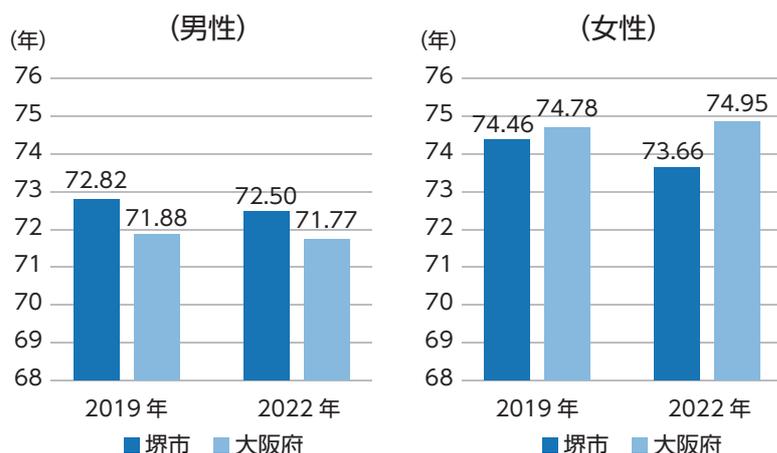


いきいき 生涯にわたって健康に暮らせる

【現状・課題】

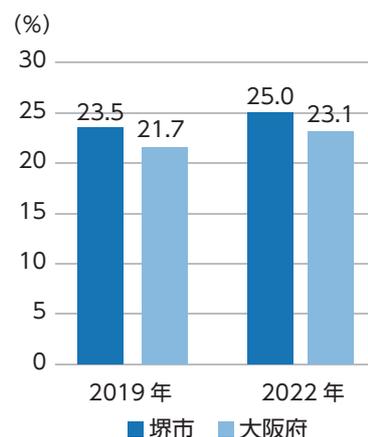
令和元（2019）年と令和4（2022）年の市の健康寿命の推移をみると、男性の健康寿命は府をおおむね上回って推移しています。女性の健康寿命は、令和元（2019）年、令和4（2022）年とも府を下回っています。要介護認定率は、市・府いずれも上昇しており、市は府を上回って推移しています。また、特定健康診査の結果をみると、西区では男女ともに堺市全体と比べて、血圧が高い人が多い傾向にあります（資料編p41を参照）。一方、区民アンケートによると「フレイル」という言葉を知っていると回答した40歳以上の西区民の割合は41.1%であり、5割を下回っています。また、一人暮らしの高齢者が年々増加しており（第2章p7を参照）、食生活などの生活習慣の乱れが懸念されます。

<健康寿命の推移>



資料:令和6年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金
(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)
分担研究報告書
(男性) 付表 5-1. 「日常生活に制限のない期間の平均」
(女性) 付表 5-2. 「日常生活に制限のない期間の平均」

<要介護認定率>



令和4年(2022年)のみ
令和5年(2023年)3月末月報

資料:介護保険事業状況報告 年報

【取組の方向性】

健康寿命(*)の延伸、QOL(生活の質)の向上には、健康への意識を高め、生活習慣を改善する必要があります。このため、西区には血圧が高い人が多いという地域特性を踏まえ、世代に応じた保健指導や健康教育に取り組み、地域医療機関等と連携しながら健康への意識高揚を図ります。

また、区民の運動の継続につながる行動をデジタルとアナログの両面から支援します。

(*) 健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間

重点施策 1 世代に応じた健康支援

ライフステージに合わせた保健指導、健康教育とこれらに関連した普及啓発を行います。また、住民の方が興味・関心を持ちやすく、参加しやすいアウトリーチ型の取組や区内医療機関や施設と連携した取組を進めます。

- 高血圧（*1）などの生活習慣病の予防
- 介護予防・フレイル（*2）・認知症の予防
- 食育の推進及び歯と口の健康を保つための対策

（*1） 最高血圧が140mmHg 以上又は最低血圧が90mmHg 以上

（*2） 加齢に伴う予備能力低下のため、ストレスに対する回復力が低下した状態

重点施策 2 健康行動の促進

西区では、ディスコン大会やウォーキング大会、各地域に根差した様々な競技種目、健康体操などのスポーツ活動が行われています。健康を増進する市民活動や地域コミュニティの活動の活性化を支援し、さらに活動の輪が縦にも横にも広がる取組を進めます。また、子どもから高齢者までが運動するきっかけをつくることで、運動習慣の定着につなげます。

- 地域における健康活動の支援
- 運動する機会の提供

【成果指標】

重点施策の成果指標として以下の項目を設定します。

重点施策	成果指標	現状値 (2024年度)	目標値 (2030年度)
1	「定期的に血圧や体重を測定するなど、自分自身の健康状態をチェックしていますか」（市民意識調査）の問いに対し「チェックしている」と回答した西区民の割合	75.5%	82.0%
1	「特定健康診査を受診していますか」（市民意識調査）の問いに対し「受診している」と回答した西区民の割合	70.5%	81.0%
1 2	「1日に30分以上の運動（日常の歩行や自転車を含む）やスポーツはどれくらい行っていますか」（市民意識調査）の問いに対し「週2回」「週3回以上」と回答した西区民の割合	55.5%	70.0%

基本方針 2 子育て環境の充実



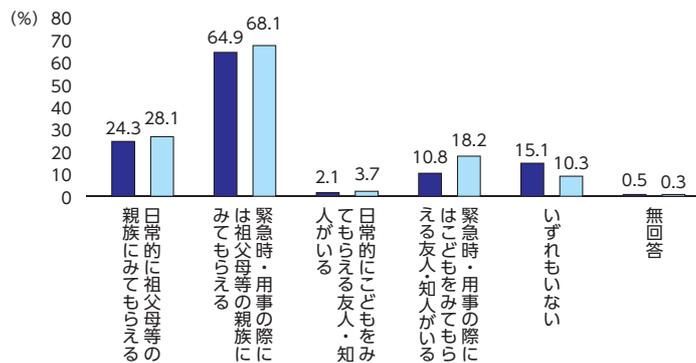
すくすく 安心して生み育てられ地域の中で成長できる

【現状・課題】

近年、世帯構造や家族観の変化など家庭をめぐる課題、周囲とのつながりの希薄化、ひきこもり、ヤングケアラー、児童虐待、いじめ、不登校など、子ども・若者を取り巻く課題が顕在化しています。堺市全体の不登校の児童・生徒数は、いずれも年々増加しています（資料編p43を参照）。

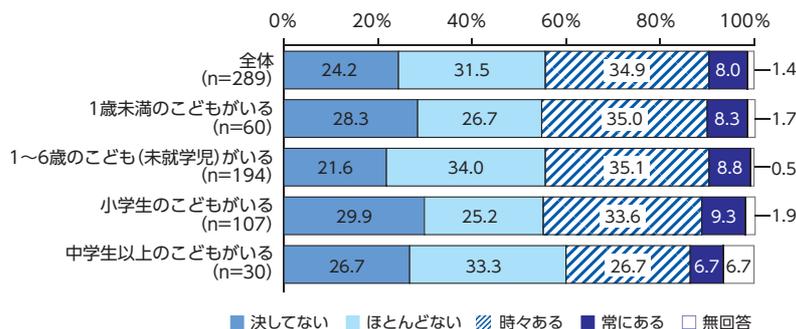
令和5（2023）年堺市子ども・子育て支援に関する調査によると、「あなたのお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。」の問いに対する回答のうち、親族や友人等にみてもらえると回答した人の割合が最も高いものの、前回（平成30（2018）年）調査と比べて減少傾向にあります。また、子育て世帯の4割以上が「自分には人とのつきあいが無いと感じることがある（「常にある」と「時々ある」の合計）」と回答しており、地域とのつながりの希薄化による孤立が懸念されます。

<子どもをみてもらえる親族・知人(就学前児童保護者)>



資料：堺市子ども・子育て支援に関する調査（令和5（2023）年）

<自分には人とのつきあいが無いと感じることがある人の割合>



資料：堺市子ども・若者の意識及び少子化社会に関する調査（令和5（2023）年）

【取組の方向性】

安心して子どもを生み育てられ、子どもが地域社会の中で大切にされながら健やかに成長するためには、地域全体で子育てを支える仕組みが必要です。このため、子育て（おおむね18歳までの子どもが対象）に不安や負担を感じる人や子ども自身が孤立しないよう相談支援体制を整備し、地域で支援活動を行う主体と連携して、子育て環境を充実させます。

また、次世代を担う子どもが地域社会の一員として、将来に夢と希望をもって自分らしく成長できるよう、子どもが主役となれる西区をめざします。

重点施策1 地域でつながる子育てのWA！の充実

子育てひろばや子育てサロン・サークルなどの身近な地域で子育てを支援する団体と区役所が連携・協力を密にすることで、必要な支援につながりやすくします。また、子育てをするママやパパなどがつながることのできる機会を提供し、気軽に話せる仲間をつくることで孤立化を防ぎます。さらに、子育てに関する知りたい情報や欲しい情報を必要な人に届けます。「WA!」は、西区の子育て支援の特色を表した言葉で、輪っかの輪(わ)、循環の環(わ)、会話の話(わ)などの意味を込めたものです。

- 妊娠・出産期から青年期まで切れめのない相談支援体制の充実
- 地域の子育て支援ネットワークの拡大
- 子育て世代が交流する場の提供
- 父親の育児参加の推進
- 子育てに関するきめ細かな情報発信

重点施策2 こどもが「主役」になれる西区

こどもが地域社会の中で健やかに成長するため、こどもの活動の成果を発表する場や多世代が交流できる場の提供を通じて、夢や希望、目標を持てるきっかけをつくり、豊かな人間性の育成をめざします。また、区域内の教育機関と連携し、こどもの意見を聴く機会や交流する機会、考えを共有する機会を設け、こどもの主体的な活動につなげます。

- こどもの意欲を引き出す応援
- こどもの豊かな人間性や主体性の育成
- こどもから大人までの世代間交流の促進

【成果指標】

重点施策の成果指標として以下の項目を設定します。

重点施策	成果指標	現状値 (2024年度)	目標値 (2030年度)
1 2	「堺市は子育てがしやすい都市だと思いますか」(市民意識調査)の問いに対し「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した西区民の割合	54.0%	73.0%
1	「子育てなど生活や健康等の悩みがあるときの相談窓口を知っていますか」(市民意識調査)の問いに対し「知っている」と回答した西区民の割合	44.1%	80.0%

基本方針 3 安全・安心の確保



にこにこ 地域でつながり安全に安心して暮らせる

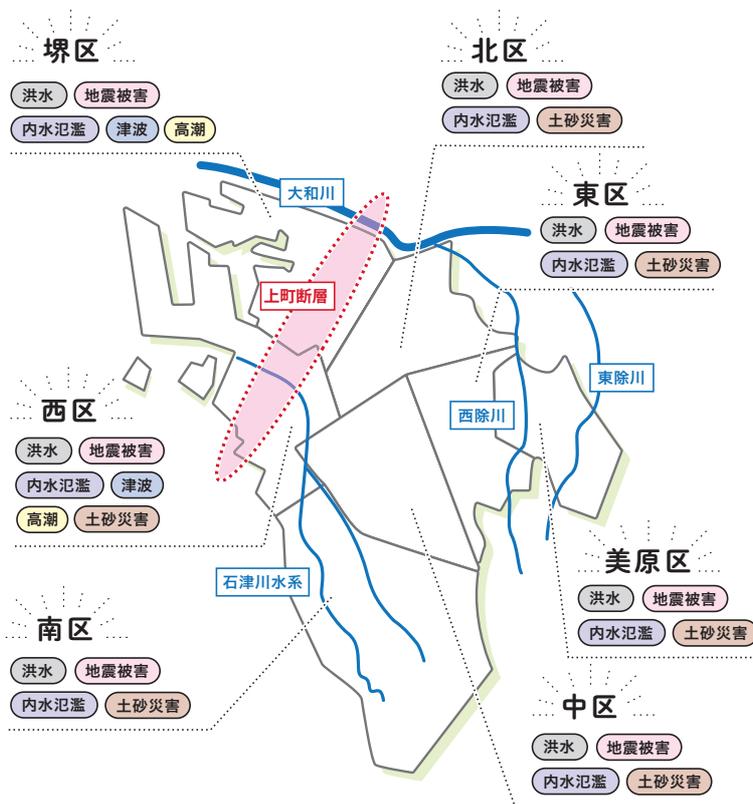
女性や子どもをはじめすべての人が住み慣れた西区で、犯罪や災害への不安感を抱かず安心して暮らせるセーフシティを実現するため、防災・減災力を高め、犯罪や事故のない西区をめざします。

また、誰一人取り残されることなく、必要な人に必要な支援が届くよう、日常生活の困り事や悩み事を地域社会の中で協力して解決できる地域福祉の充実に取り組みます。

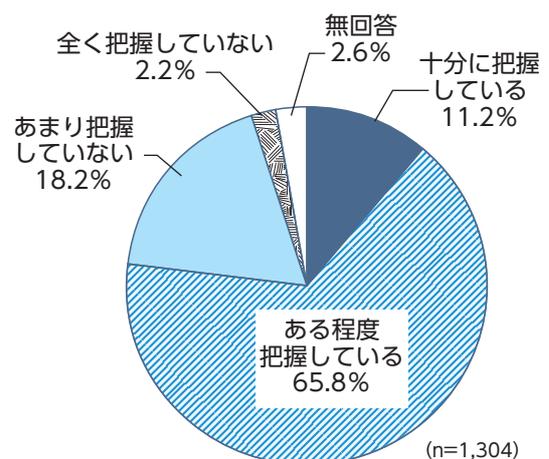
自助・共助・公助のバランスのとれた防災・減災

【現状・課題】

沿岸部のある西区では津波や高潮による浸水被害、石津川などの河川氾濫による浸水被害、家原寺の周辺での土砂災害などのリスクがあります。令和6（2024）年度堺市市民意識調査において「堺市は災害に強く、安全・安心に暮らせる都市だと思いますか。」の問いに、「そう思わない」と回答した西区の回答者の割合は17.6%で、最も高い数値です。区民アンケートでは、想定される災害を把握していると回答した割合は77%で、回答者のエリア別にみると沿岸部のはまでらエリアが84%でした。一方で、非常持ち出し品や備蓄の準備をしている人が4割程度に対し、避難行動をあらかじめ決めていない人や家族との連絡方法や集合場所を決めている人は2割程度にとどまりました。また、自治会加入率が減少傾向にあり（第2章p13を参照）、地域のつながりの希薄化、地域活動を支える人の高齢化などが懸念されるため、地域防災力の向上を図る必要があります。



【想定される災害の把握状況】



資料:堺市防災マップ(令和4年3月発行)

【取組の方向性】

激甚化する風水害や今後発生が想定される南海トラフ巨大地震、上町断層帯地震などに備え、すべての人が「自分の命は自分で守る」という自助の考えのもと、正しい知識をもち行動することが大切です。また、初期消火や被災者の救出、避難所運営にあたっては「自分たちの地域は自分たちで守る」という共助の考えのもと、地域で協力して行動できる人を増やすことが重要です。

そのため、区役所では職員の防災対応力を高め、区域内の情報を具に把握し、発災時に迅速に対応できる体制を整備します。自助・共助・公助の力をバランスよく高め、災害に強い西区をめざします。

重点施策1 地域防災力・減災力の向上

日常生活の中で防災についての意識を高め、災害リスクの把握、災害情報の収集、災害への備えができるようタッチポイントやタイミングをとらえた取組により自助を促進します。加えて、自治会や市民活動の支援を通じて共助の力を強化し、共助の輪が広がる取組を進めます。また、区役所職員の防災力及び庁舎の機能向上、地域との連携強化を進めます。

- 防災の正しい知識の共有と理解・行動の促進
- 地区防災計画の策定の支援
- 自主防災組織の活動の支援
- 住民同士が助け合える関係の構築
- 区災害対策本部の体制の強化

犯罪や事故のないセーフシティ

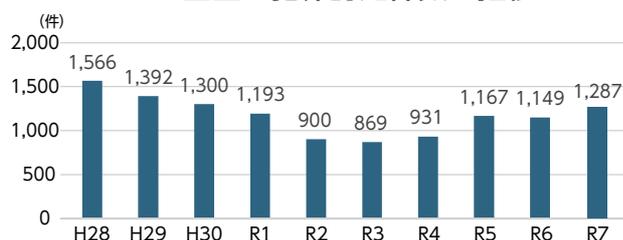
【現状・課題】

西区では、地域住民が中心となって青色防犯パトロール活動や見守り活動、西堺警察署と連携した防犯や交通安全の啓発活動、防犯カメラ・防犯灯の設置など、安全・安心なまちの実現に向けた取組を進めています。

西区の犯罪認知件数は平成27年からおおむね減少傾向で推移しており、令和7（2025）年は1,287件です。これは大阪府の総数84,115件の約1.5%ですが、市内他区と比べると、堺区に次いで2番目に多い件数です。犯罪認知件数は、コロナ禍の収束による社会経済活動の再開等を背景に近年増加傾向にあり、特殊詐欺被害の令和7（2025）年の西区の特殊詐欺の認知件数は64件です。堺市全体の被害総額は10億7000万円に上り、その対策を強化する必要があります。また、交通事故発生件数は、平成27年から減少傾向ですが、市内他区と比べると令和6（2024）年で堺区に次いで2番目に多い値です。

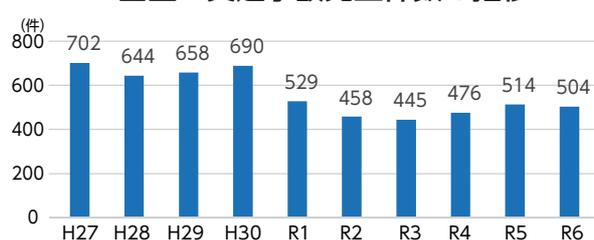
令和6（2024）年度堺市市民意識調査において「堺市は治安に関する不安が少ない都市だと思いますか」の問いに「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した西区の回答者の割合は51.0%で、「そう思わない」の割合は22.6%でした。区民アンケートでは、事故や犯罪を減らすための有効な対策に関する回答の割合は「自ら事故や被害にあわないようにする」が73.2%、「防犯カメラを設置するなどの対策」が59.1%であり、引き続き地域での自主防犯活動に取り組む必要があります。

＜西区・犯罪認知件数の推移＞



資料：「犯罪統計」（大阪府警察ホームページ）

＜西区・交通事故発生件数の推移＞



資料：「大阪の交通事故」（大阪府警察ホームページ）

【取組の方向性】

女性や子どもをはじめ、すべての住民が犯罪や事故にあわないよう、西堺警察署と密に連携し、地域住民や各種団体、事業者と協力しながら、犯罪抑止のための環境を整備し、効果的かつ持続可能な地域防犯活動や交通安全の取組を進め、安全に安心して暮らせる西区をめざします。

重点施策 2 犯罪・交通事故のないセーフシティの実現

警察や区役所などの行政機関だけでなく、自治連合協議会、防犯協会、交通安全協会、事業者や市民団体による地域ぐるみで犯罪や交通事故をなくす機運を醸成し、地域防犯活動に連携・協力して取り組みます。また、手口が多様化する特殊詐欺をはじめ犯罪を未然に防ぐ対策を強化し、防犯カメラの効率的な運用など安全・安心な住民生活を守る環境を整備します。

- 特殊詐欺被害防止の強化
- 犯罪を防止・抑止する環境の整備
- 地域での見守り・防犯活動の推進
- 交通ルールやマナーの遵守の普及啓発

地域社会全体の包括的支援による福祉、相談ネットワークの充実

【現状・課題】

令和6（2024）年度堺市市民意識調査において、「介護・子育て・就労・生活困窮・病気・メンタルヘルスなど生活や健康等の悩みがあるときの相談窓口を知っていますか」の問いに対する西区の回答者の割合は、「知っている」が44.1%、「知らない」が55.9%であり、「知らない」と回答した方の割合が高くなっています。また、障害のある人や介護を必要とする人、生活困窮や生活上の課題を抱える人、年々増加する一人暮らしの高齢者（第2章p7を参照）などが地域社会の中で孤立することが懸念されます。

【取組の方向性】

高齢者や障害のある人をはじめすべての人が、地域社会の中で自分らしく生きがいをもって孤立することなく安心して暮らせるよう、日常の小さな困り事や心配事でも気軽に相談できること、どこに相談すればよいのかを知ってもらうことが重要です。多様化・複雑化する暮らしの課題を抱える個人や家庭を地域で包括的に支援し、相談しづらい人や相談窓口の利用に抵抗感がある人も適切な支援につなげ、誰一人取り残されることのない西区をめざします。

重点施策 3 相談支援ネットワークの充実

暮らしの課題が大きくなる前に区役所の相談窓口等を気軽に利用していただけるよう、相談できる窓口の情報を広く周知し、孤立を防ぎます。また、困り事を抱える人や複合的な課題を抱える人、その家族が地域社会とつながり安心して生活できるよう、区役所と関係機関及び地域福祉活動を行う人や団体が連携・協力して支援します。

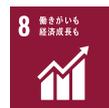
- 相談窓口の周知強化
- 区役所や関係機関及び支援団体等の連携による重層的支援の充実
- 地域社会における社会参加や就労による自立支援の促進

【成果指標】

重点施策の成果指標として以下の項目を設定します。

重点施策	成果指標	現状値 (2024年度)	目標値 (2030年度)
1	校区ごとの地区防災計画の策定割合	85.7%	100%
2	「堺市は治安に関する不安が少ないと思いますか」（市民意識調査）の問いに対し「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した西区民の割合	51.0%	63.0%
3	「介護・子育て・就労・生活困窮・病気・メンタルヘルスなど生活や健康等の悩みがあるときの相談窓口を知っていますか」（市民意識調査）の問いに対し「知っている」と回答した西区民の割合	44.1%	80.0%
3	「健康・介護など日常生活における困りごとについて、相談に乗ってくれたり助けてくれる人が身近にいますか」（市民意識調査）の問いに対し「いる」と回答した西区民の割合	68.9%	81.0%

基本方針 4 地域魅力の共有



わくわく 住む人と訪れる人に愛着が生まれる

【現状・課題】

西区には古くから受け継がれてきた歴史文化や伝統産業をはじめ様々な魅力的な資源があります。また、西区に愛着をもって賑わいを創出し、地域を活性化するために活躍している人や事業者、活動団体なども大切な地域の資源です。

令和6(2024)年度市民意識調査において「堺の伝統産業であることを知っているもの」を選択する問いに対し「注染・和晒」と回答した西区民は35.3%と中区民に次いで多く、他区と比べて「注染・和晒」が伝統産業として認識されていることが分かります。一方、同調査において「これから堺市に住み続けたいですか」「堺市は魅力や愛着を感じる都市だと思いますか」「堺市は歴史文化資源を身近に感じることができる都市だと思いますか」の問いに対し「そう思う」と回答した西区民の割合は、いずれも堺市全体よりも低い値です。

【取組の方向性】

区民や来訪者が西区に魅力や愛着を感じるには、まず西区の良さを知り、気づくことから始まります。歴史文化や伝統産業だけでなく地域での様々な取組を含む西区の地域資源を魅力に感じ、興味・関心をもって継続的かつ効果的に人々の間で共有される仕組みが必要です。このような仕組みを構築し、地域への愛着の醸成、次世代への継承により、住みたい、住み続けたいと思える西区をめざします。

また、愛着をもって自らその魅力を周りに伝えられる「西区ファン」の輪を広げる仕組みを構築し、「区民が愛着と誇りをもてる西区」、「区外の方が訪れたいと思う西区」をめざします。

重点施策 1 西区の魅力の再発見

区民が自ら住む地域や訪れるまちに愛着を感じるには、地域の様々な資源を魅力的なものであると認識し、再発見してもらう必要があります。西区ならではの魅力が伝わる広報活動や歴史文化・伝統産業などの資源を活かしたイベント、文化芸術やスポーツなど様々な団体や施設等と連携した取組を行うことで、興味・関心を高めます。

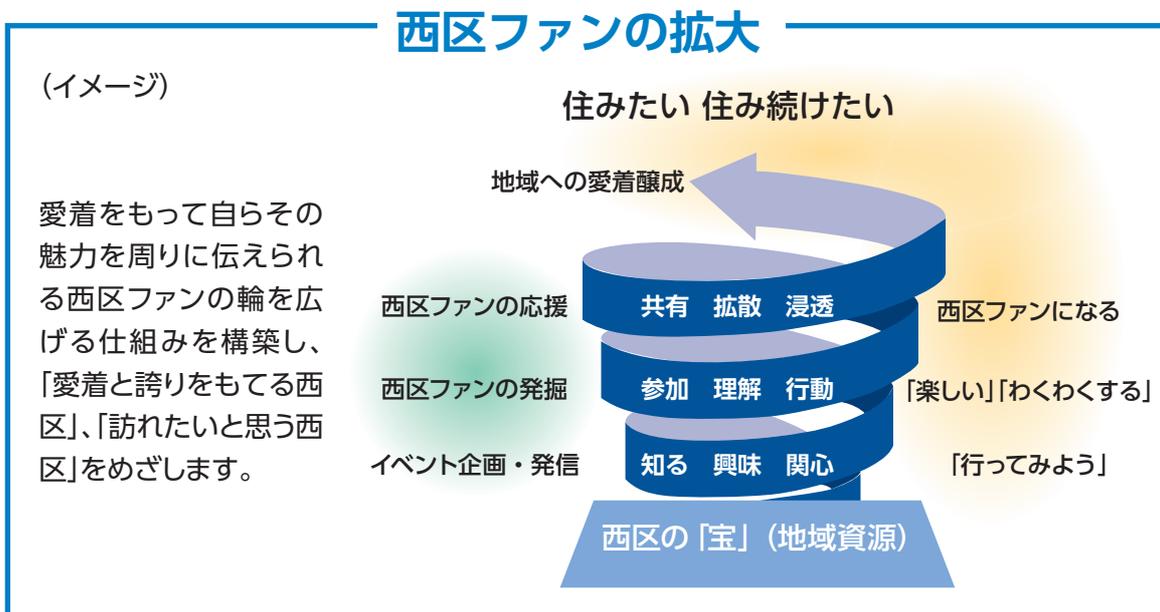
- 歴史文化・伝統産業の魅力が伝わる発信
- 地域での魅力的な取組や活動の紹介
- 文化・スポーツ資源と連携・協働した取組の推進

重点施策 2 西区ファンの拡大と魅力の浸透

西区にある地域資源を「わくわく」する気持ちで魅力ととらえ、周りにもその魅力を自ら伝えたいと考える西区ファンを見つけ、発信や活動を支援する仕組みを構築します。西区ファンによる発信や活動により西区ファンの輪が広がることで、さらに多くの住む人や訪れる人に「わくわく」する気持ちが芽生え、西区の魅力の浸透、愛着の醸成が期待できます。

また、すでに西区にある地域資源に加え、新たに住む人や訪れる人が創りだすものや多様な価値観が融合して生まれるものも西区の魅力とし、住みたい住み続けたい西区をめざします。

- 西区に「わくわく」を広げてくれる西区ファンの発掘
- 西区ファンによる「わくわく」の発信・活動の応援
- 多様な価値観の共有による新たな魅力の創造



【成果指標】

重点施策の成果指標として以下の項目を設定します。

重点施策	成果指標	現状値 (2024年度)	目標値 (2030年度)
1 2	西区公式Instagram のフォロワー数	3,270 フォロワー	6,650 フォロワー
1 2	「これからも堺市に住み続けたいと思う」(市民意識調査)の問いに対し「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した西区民の割合	82.5%	89.0%
1 2	「堺市は歴史文化資源を身近に感じることができる都市だと思う」(市民意識調査)の問いに対し「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した西区民の割合	71.0%	83.0%
1 2	「堺の伝統産業であることを知っているものをお選びください」(市民意識調査)の問いに対し「注染・和晒」と回答した西区民の割合	35.3%	60.0%